

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン

2015年版

# 募金 報告書





# Our work



井戸ができて喜ぶカンボジアの子どもたち。短い子ども時代を元気いっぱいの笑顔で過ごせるよう、願いを込めて支援を続けています。

## 水・食糧支援

# この子を救う。未来を救う。

皆さまの募金で、  
困難な状況にある人々に  
寄り添って  
支援を行うことが  
できました!

ワールド・ビジョン・ジャパン (以下WVJ) は、チャイルド・スポンサーシップ以外にも多くの支援活動を行っています。この冊子では、2015年度及び2016年度上半期に実施した母子保健、難民支援、水・食糧支援活動についてご報告いたします。



多くのアフリカの国々の主食である穀物のメイズ。緊急時に食糧配布されるだけでなく、人々の労働の対価としても届けられています。



## 母子保健

我が子の元気な姿に、喜びいっぱいのお母さん。厳しい環境の中で子どもたちが無事に育つことへの喜びはひとしお。

Before



マラウイ・ンチン県の出産分娩施設の妊産婦待機所。陣痛に苦しむお母さんたちは、ゴザの上で待機しなければなりません。

After



産科棟の整備事業を行い、きちんと設備が整った施設を新しく建設。清潔なベッドが並び、もう床の上で陣痛に耐えることもありません。

シリアの子どもたちをとりまく厳しい避難生活。苛酷な状況にあっても、イベントを開催すると輝くばかりの笑顔を見せてくれます。



## 難民支援

南スーダン難民として暮らす子どもたちに配布される、教育キット。何ももたずに逃げてきた子どもたちにとって勉強道具以上の価値が。



フィリピンの支援事業地の子どもたちと片山事務局長。「支援地訪問時は子どもたちとのふれあいを楽しみに、大切に過ごしています」

東ティモール駐在の頼田スタッフ。「現地の子どもたちにも支えられて活動しています。ともに動くことで少しずつ成果を感じています」



南スーダンの難民の子どもたちと村松スタッフ。「子どもたちの未来のために今必要な教育が受けられるよう、日々全力で活動中です」



# 母子保健



## 児童保護募金

35,467,085円

(延べ募金人数 3,410人)

## 誕生日記念募金

43,477,519円

(延べ募金人数 5,917人)

## プロジェクト・サポーター\*

35,693,000円

(募金人数 1,532人) (難民支援分含む)

## 募金募集期間

2014年10月1日～2015年9月30日

## 対象支援事業

- カンボジア・トモボ保健行政区母子保健改善事業
- ベトナム・ディエンビエン省における妊産婦・新生児の健康改善事業
- ルワンダ・チャイルド・ヘルス・ナウ支援事業
- 南スーダン・西エクアトリア州教育支援事業
- マラウイ・ンチシ県母子保健関連施設整備事業
- アフガニスタン・ヘラート州および周辺地域における保健・医療従事者養成のための環境整備事業
- ソマリア HIV/AIDS予防対策及び感染症ケア統合型事業



# 1人でも多くのお母さんと赤ちゃんが笑顔で対面するために

## 《背景》

ベトナム北西部のディエンビエン省では、多くの少数民族が町の中心から離れた山間部で暮らしています。伝統的な農業を営むその暮らしは貧しく、学校に行ったことのない女性はベトナム語を話すことができません。慣習により多くの女性が妊娠しても産前検診を受けず、臨月になるまで山の上の畑で働き自宅で出産しています。自宅出産には大量出血や感染症などのリスクが伴います。

また地域の保健センター施設や備品は老朽化し、保健スタッフも再研修を受ける機会が限られていたため、適切なサービスを提供することができていませんでした。そのため、この地域は他の省に比べて赤ちゃんとお母さんが亡くなる数が多いことが問題となっていました。

## 《主な活動》

安全な妊娠・出産についての知識を人々に啓発

産科棟の建設・拡充、設備の整備

妊娠中の母親を緊急時に搬送できる体制作り

母親のための女性の医療従事者を育成

母親と赤ちゃんをケアするための体制作り

ベトナム・ディエンビエン省における妊産婦・新生児の健康改善事業の支援成果データ(3年間)

- 郡病院の手術室の改修：郡病院1
- コミュン保健センターの分娩室新設：4カ所
- 産科備品提供：省病院1、郡病院2、コミュン保健センター7 合計10カ所
- 医療研修を受けた保健スタッフの数：3年間延べ160名
- 研修を受けた村落出産助産者：29名
- 事業で支援した保健クラブのある村落の数：25村落
- 保健クラブ参加者(母子・父子)数：毎月約700～730名
- 事業で支援したコミュニティにおける搬送システム：32村落



保健センターで出産したハンさん夫妻と、ふたりの初めての赤ちゃん。毛布には「出産は保健センターで」と書かれています。

「保健クラブ」で妊娠中の注意点について説明する助産師のチュムさん。安全なお産や子育てについて、冊子を使って説明しています。

\*プロジェクト・サポーターとは、月々1,000円からの継続支援を通して、困難な状況に生きる途上国の子どもたちを継続的に支援するためのプログラムです。今回の募金では、母子保健と難民支援分野の支援に用いさせていただきます。

## 報告レポート

## コミュニティの行動変容がお母さんと赤ちゃんの命を守る鍵

このプロジェクトでは3年間を通して保健センターの分娩室建設や産科備品提供、保健スタッフや村落の出産助産者への医療研修、地域の人々への啓発活動などを行いました。分娩室を建設したある保健センターでは、同センターの助産師タムさんが「2012年は2件だった年間分娩件数が2015年は34件にまで上がった」と、うれしそうに報告してくれました。医療研修を受けた多くの保健スタッフたち

は以前よりも自信を持って日々の業務に励み、研修で学んだ技術を他のスタッフにも伝えていきます。この地域では特に地域の慣習が根深いため、プロジェクトでは月に一回、村の村長さんの家に妊婦さんや小さい子どもを持つ両親や祖父母を招いて、産前検診の大切さや妊娠中の過ごし方、新生児のケアの方法などを楽しく学んでもらえる場として「保健クラブ」を開催。「新しい知識をいろいろ学ぶこ

とができて楽しい」と参加者にも好評でした。こうした取り組みを継続した結果、参加者が以前よりも新生児と母親の健康に関心を持つようになり、産前検診を受ける女性の数が大幅に増え、保健センターでの出産を選ぶ女性たちの数も少しずつ増えてきました。今後も地域の人々が積極的にこの活動を続けていくことで、地域の母親と新生児の命に大きな変化が起きることを期待しています。

## from STAFF



言葉の壁に負けずに思いを届けて  
プロジェクト・スーパーバイザー  
三浦真穂

「ベトナムの事業は山岳少数民族が対象のため、ベトナム語がわからないお母さんや女性も少なくありません。現地スタッフも少数民族の言葉がわからず、村の男性に通訳を頼むのですが、通訳が複数入るとニュアンスが変わったり個人の意見が混ざって、意思の疎通は困難でした。支援者の方を代表して駐在していることを胸に、思いを届けてきました」



地域の特色や慣習に寄り添える支援を  
プロジェクト・アシスタント・スーパーバイザー  
木戸梨紗

「よりよい支援の提供のため、活動の質の向上に注力して業務にあたっています。たとえば、ベトナム保健省の推奨する活動が少数民族や地域の人々にとって参加しやすく意味のあるものとなるよう、地域の特色や慣習に配慮するよう心がけました。お母さんたちの声を吸い上げるため、雨の中、バイクで山道を4時間かけて訪ねたことも印象に残っています」



支援で得た学びをより多くの人に広げたい  
ナショナルオフィス保健コーディネーター  
ジェン・アイン・ヴー

「ベトナムの保健事業全般を担当し、プロジェクトのプランニングから携わりました。この3年間の支援活動を通じて、保健スタッフや現地の人々も、多くの学びや経験を得たのではないかと実感しています。学んだことを他の地域にも伝えていけるようになることが、今後の課題だと考えています。皆さまの支援に心より感謝しています」



# 難民支援



夏期募金  
**58,071,210円**  
(延べ募金人数 7,275人)

シリア難民支援募金  
**2,052,042円**  
(延べ募金人数 153人)

南スーダン緊急支援募金  
**17,000円**  
(延べ募金人数 4人)

プロジェクト・サポーター  
**35,693,000円**  
(母子保健分含む) (募金人数 1,532人)

募金募集期間  
2014年10月1日～2015年9月30日

対象支援事業  
エチオピア南スーダン難民キャンプでの緊急時における教育事業  
シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業



## 子どもたちが暴力や戦火の被害にさらされる、負のサイクルを止めるために

### 《背景》

激しい内戦が続くシリアでは470万人が、南スーダンでは68万人が国外に逃れて避難生活を送っています。そのうちの約250万人は子どもたちです。紛争の影響を受けている子どもたちは、世界中で2億5千万人も存在するといわれています\*。

また、難民となった多くの人々が祖国に戻るまで、平均して約17年かかるともいわれています。着の身着のまま命からがら逃げてきた子どもたちや難民キャンプで生まれた子どもは、厳しい状況下で幼少期を送らなくてはなりません。紛争は子どもたちを身体的・精神的に守るための学校や、安心して遊べる環境を奪い、未来を閉ざしてしまいました。

\* UNICEF Humanitarian Action for Children 2016.  
[http://www.unicef.org/publications/files/HAC\\_2016\\_Overview\\_ENG.pdf](http://www.unicef.org/publications/files/HAC_2016_Overview_ENG.pdf)

### 《主な活動》

子どもたちが安全に学ぶ環境の整備  
(校舎の建築・修復、学用品の提供含む)

学校運営、授業の開催  
(難民の学校の運営、補習授業、教員の採用、クラブ活動、レクリエーション活動開催)

教員の養成・研修

教育を受ける重要性、  
女子の教育などの啓発活動

コミュニティの学校運営への参画促進  
(PTA活動など)

シリア難民および  
ヨルダン人の子どもたちへの  
教育支援事業

補習授業に通った子どもの数：  
1,967人(1期720人、2期1,247人)

補習の教室を整備した学校数：5校

保護者会へ参加した人数：  
699人(第1期405人、2期294人)

補習授業運営のための  
研修を受けた教員数：  
30人(女性18人、男性12人)

※皆さまからいただいた募金とジャパン・プラットフォームの助成金を合わせて、支援をしています。

補習授業に出席した子どもが色えんぴつで描いた絵。左上にはアラビア語で「安全な岸にたどり着きたい」と書かれています。



黒板を一心に見つめるラドワン君。4年間も学校に行けませんでした。ワールド・ビジョンが運営する補習授業に通えるように。

### 報告レポート

## 教育が子どもたちに未来への希望を持ち続ける力を与えます

子どもたちに寄り添い、必要とされているニーズに応えるために、緊急の教育事業を行いました。エチオピアでは、紛争により避難してきた南スーダンの子どもたちが暮らす難民キャンプで、5年生から8年生を対象にした学校を2校開校。日々の勉強やクラブ活動を始めた学校運営、教員や校長先生、保護者を巻き込んだ学校運営能力の強化や啓発活動を通じて、女子が教育を受けることの大切さや、避難時でも子どもたちが学校へ通い続けることの重要性を伝えました。

ヨルダンでは、シリア難民の急激な流入によって飽和状態となった公立学校において、小学校に通うシリア難民の子どもとヨルダンの子どもを対象に、英語・算数・アラビア語を各自のレベルに合わせて進める補習授業を運営しました。さらにシリアとヨルダンの子どもたちが自由に感情を表現し、安心して遊

べる場所を提供するためのレクリエーション活動の開催や、保護者会を通じた家庭環境の改善も図りました。

特にシリア難民の子どもたちは、紛争の影響を受け精神的に不安定な場合も多く、補習授業が始まる前は目に光がなく、突然教室を出て行ってしまったこともあり。しかし授業が始まり、教員やほかの友達と交流をもつうちに、徐々に笑顔が戻ってきました。

### from STAFF



学校という新たな日常が子どもたちに希望を  
プログラム・オフィサー  
村松良介

「南スーダン難民キャンプの教育支援事業で活動中です。40度を越えるような猛暑の時期に強風に襲われ、小学校の仮校舎が全壊したことがありました。しかしそんな状況でも多くの生徒が登校し、野外で期末試験を受けていた姿は非常に印象的でした。本事業が子どもたちの将来を形づくり、母国を支える人材となっていくことを考えるたびに気が引き締まる思いです」



息をひそめ生きていくその様子が心が痛む  
プログラム・オフィサー  
國吉美紗

「街に暮らすシリア難民の家族が、小さな部屋にひとかたまりになって息をひそめて暮らしている様子は、とても心が痛むものでした。『子どもが障がいを持っているため、難民キャンプでは適切な医療が受けられないと思い、街に出てきた』とお母さん。やるせない気持ちや大きな憤りを、自分の中で消化するのが非常に大変だったのを覚えています」



教育は子どもたちの将来に最も大切  
プロジェクト・アシスタント  
アラ・フセイン・アリ・ブレイク

「ヨルダン事務所、シリア難民の子どもとヨルダンの子どもたちが学校生活に問題なくスムーズに戻れるよう、また教育を少しでも受けられるようにサポートしています。教育は、一人ひとりの子どもたちの将来にとって必要であり、人生の中で最も大切なもののひとつです。私自身も支援活動をより良いものにするために学んでいます」



# 水・食糧支援



クリスマス募金  
**100,851,919円**  
(延べ募金人数 11,099人)

ラブ・ローフ募金  
**2,261,118円**  
(延べ募金人数 121人)

## 募金募集期間

2015年10月1日～2016年2月29日

## 対象支援事業

イラク・クルド人地区食料支援プログラム

ミャンマー食料支援プログラム

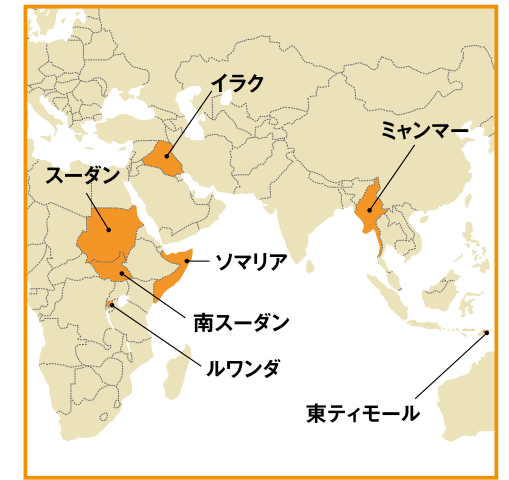
ソマリア食料支援プログラム

スーダン・南ダルフール食料支援プログラム

南スーダン食料支援プログラム

東ティモールボボナロ県における水・衛生環境改善事業

ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト



# 今日も明日も、子どもたちに食べさせていけるようになるために

## 《背景》

南スーダンは40年以上も続いた内戦の後、2011年に独立した世界で一番新しい国です。ところが、2013年12月に紛争が再発、部族間の対立が激しくなり、命の危険を感じた人々が、国内避難民キャンプに安全を求めて避難しました。暴力の対象となることを恐れ、住み慣れた故郷に戻ることはもちろん、キャンプの外に出ることすらできません。

今も約20万の人々が、急激な物価上昇により自ら食べ物を手に入れることも、また働くこともできない状況におかれています。避難者の半数以上は女性と子どもで、南スーダン国内では5歳未満の子どもの4人に1人が栄養不良に苦しんでいます。

## 《主な活動》

穀物、豆、塩、油等、  
毎日必要な食糧を人々に配布

5歳未満の子どもに栄養価の高い  
特別食を提供し、栄養改善を促す

妊娠中、授乳中の女性に栄養補助食を支給

フードフォーワークを通して母親が子どもたちの  
食糧を継続的に確保する機会を提供

食料や生活必需品の必要に応えるため、  
現金やバウチャーを配布

## ミャンマー・イラク・ 南スーダン・ソマリア 緊急食糧援助プログラム

食糧の配布量：1,987.21トン

食糧の受益者：32,519人

キャッシュ(バウチャー含む)の  
配布額：573,423.78ドル(USD)

キャッシュの受益者：42,615人

※2016年3月以降の支援予定データも含む



食糧を受け取るために列に並ぶ女性たち。家族の人数分のメイズ(トウモロコシの粉)や、豆、塩、油が配布されます。



ジュバの国内避難民キャンプ内の仮住居で暮らす家族。マルサさんは、食糧配布で受け取った食糧で10人の子どもの育てています。

## 報告レポート

## 子どもたちが無事に育って欲しい、その思いを実現しています

南スーダンの首都ジュバの国連施設内に設置された国内避難民キャンプには、2万人以上の国内避難民が暮らしています。WVは、2014年6月から現在もその2万人以上の国内避難民に対し、毎月ひとりあたり平均、穀物(メイズと呼ばれるトウモロコシの粉)7.5キログラム、豆1.5キログラム、塩0.15キログラム、油0.9キログラムを配布しています。また、生後5カ月から5歳までの約5千人の幼い子どもたちには、通常の食糧に

加えて多くのミネラルとビタミンを含む栄養補助食(毎月ひとりあたり6キログラム)を配布し、子どもたちの栄養状態の改善に尽力しました。10人の子どものひとりだけ養う母親マルサさんは、「食糧を受け取ることができるようになり、子どもたちがお腹を空かせて泣くことがなくなりました」と言います。今では子どもたちが外で元気に遊ぶ姿も見られます。

ソマリアでは、土塁の建築や簡易ダムなどの

灌漑設備の整備、井戸の掘削などの労働の対価としての食糧配布も行っています。干ばつの被害によって農作物の収穫ができず、また食糧価格の高騰もあいまって食糧難がおきているこの地域で、被害を最小限にとどめ、この現状を乗り越えるための回復力をつけるための支援です。水を確保し土の侵食を防ぐことにより、農作物を収穫でき、自分たちで食糧を得ることが出来るようになることを目指します。

## from STAFF



**100%計画通りに  
進めることは不可能**  
プロジェクト・マネージャー  
頼田優女

「東ティモール西部の農村で水道設備建設等の活動を行っています。水道設備用のタンクが大風で飛ばされ、破損したときは特に困りました。日本とは異なる気候や地形、地域の人々の考え方があるため、私たちが考えたスケジュール通りに活動を進めるということはほぼ難しく、何事も柔軟性をもって進めることがとても大切だと思っています」



**生活を整える物品で  
心もサポート**  
南スーダン プロジェクト・マネージャー  
ギフト・シバンダ

「南スーダンの国内避難民の方々のための難民キャンプで、緊急食糧援助のコーディネートを担当しています。収入がなくてもさまざまな生活必需品が入手できるように、バウチャー配布(必要な物資と換えられるチケット)も行い、食糧以外のニーズにも応えられるようにしています。長引く避難生活を物資面から支えられるような支援を目指しています」



**共に活動して下さる  
方々に支えられて**  
プログラム・オフィサー  
大井光一

「中東地域の食糧支援の日本側の担当をしています。イラクでも、内戦により住む場所を追われた多くの国内避難民の方々に対する支援を行っています。現地の子どもの生活を思うと胸が痛くなりますが、ご支援により、多くの必要としている人々に食糧を配布することができています。皆さまと共に活動していることを、心より感謝しています」



# たくさんの寄付が より大きな支援につながります!

たとえばエチオピア南スーダン難民キャンプでの教育支援では…

皆さまから寄せられた  
**募金**  
9,324,000円

+

募金の約5倍の  
**助成金**  
52,405,000円

=

**61,729,000円**



1人でも多くの子どもたちに支援を届けるために、WVでは皆さまからいただいた募金と国際機関、政府等の助成金を合わせて支援活動を行っています。

たとえば南スーダンでの内戦の悪化により、人口が4万人以上まで急激に膨れ上がったエチオピアの難民キャンプのような緊急かつ大きなニーズがある支援の場合。申請で皆さまから頂いた募金の約5倍の助成金を受諾することができます。おかげで学校設備等を整えることができ、より多くの子どもたちに支援が届けられました。

支援によって新設された学校で勉強する南スーダン難民の子どもたち。雨にも風にも負けない校舎で毎日新しいことが学べるのをとても楽しみにしています。

## 世界には、まだ支援を待っている多くの子どもたちがいます



ワールド・ビジョン・ジャパンでは、募金活動のほかに、世界の子どもを支援しながら成長を見守り、一緒に時間を重ねるプログラム『チャイルド・スポンサーシップ』も展開しています。子どもの住む地域全体の教育や保健衛生、水資源開発、経済開発、農業などの継続的な支援活動を約15年かけて実施し、地域の過酷な貧困の悪循環を断ち、子どもたちの人生を変えていきます。チャイルド・スポンサーシップについての報告は、現地から、ひとりひとりのスポンサーへ送られています。

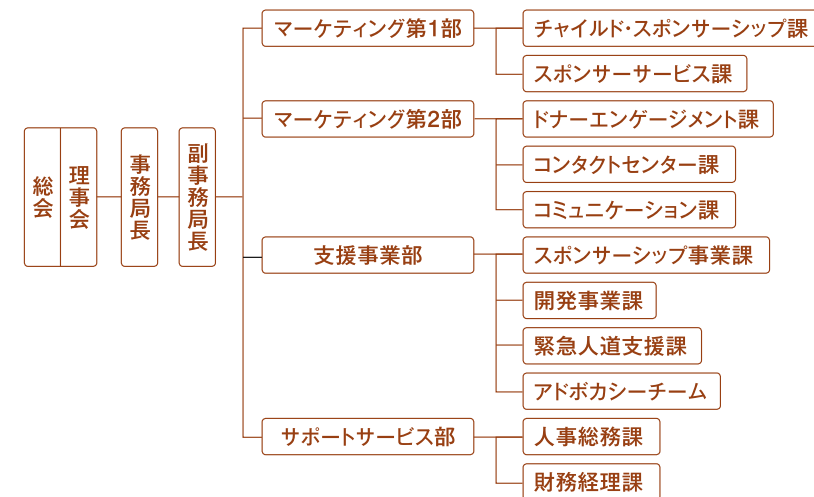
## From Backyard

# 子どもたちの明るい未来を信じて、 日々活動しています

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき開発援助や緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を展開する国際NGOです。80人の職員（嘱託・アルバイト含む）と約450人のボランティアスタッフが、皆さまの支援を届けています。



### ワールド・ビジョン・ジャパン組織図



### 多くの、そして多様なニーズ に答えることができました



常務理事・事務局長  
片山信彦

昨年度はたくさんの募金にご協力いただき、ご支援を賜り、誠にありがとうございました。皆さまのご支援によって多くの、そして多様なニーズに応える支援活動を行うことができました。私どもは、生きるための闘いを強いられている子どもたちやその親、難民となった家族の心に届く活動に取り組んで来ました。多くの子どもたちに笑顔が戻って来るのを目の当たりにし、ご支援が大きな助けになっていることを実感しております。感謝します。



特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

## 2015年版 募金報告書

2016年4月1日発行

発行 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL:03-5334-5350(代) FAX:03-5334-5359

ホームページ [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

郵便振替 00130-6-254059

当団体は「認定NPO法人」です。


皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、

税制優遇措置を受けられます。

本書の一部または全部を無断複写、転載引用することを固く禁じます。

World Vision

この子を救う。未来を救う。



皆様のご支援が、  
子どもたちの明るい未来を  
支えています